



日本映像民俗学の会第37回大会は「ふるさとの喪失と再生」というテーマのもと、岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲で開催いたします。ふるさとの喪失や急激な変容を経験する人々、それらの人々が故郷を再生、あるいは異なる場所に創造していくすがたに、よりそいながら記録することの意義や方法論に関して、考えたいと思います。もちろんこの場合の“ふるさと”は、決して特定の場所のみを指すわけではなく、言葉や伝承、慣習をはじめ、人のよりどころとなる、あらゆる文化の営みを指します。



日本映像民俗学の会 第37回岐阜大会

日時：2015年3月27日(金)、28日(土)、29日(日)
会場：岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲サンサンホール
主催：(社)日本映像民俗学の会
後援：揖斐川町教育委員会、中日新聞

3月28日(土) 特集上映 <ふるさとの喪失と再生>

入場料 500円

10:00 — 挨拶・趣旨説明 川瀬 慈 (国立民族学博物館)

10:15 — 『水になった村』 80分、2007年、監督 大西暢夫

12:00 — 13:30 昼休み

13:30 — 『原発被災地になった故郷への旅—福島県南相馬市—』 30分、2014年、監督 杉田このみ

14:15 — 『鳥の道を越えて』 93分、2014年、監督 今井友樹

16:00 — 17:00 総合討論：ふるさとの喪失と再生の記録

登壇予定者：各作品の監督：大西暢夫、杉田このみ、今井友樹+川瀬慈、山口未花子 (岐阜大学)

3月29日(日) 会員作品の上映

入場無料

午前の部 10:00 — 12:00

『水が所有されるとき—タイ・アユタヤの水辺の暮らし』 65分、2014年、木口由香

『海の聲』 20分、2014年、仁田美帆

12:00—13:00 昼休み

午後の部 13:00 — 15:00

『Sekala Niskala スカラニスカラ』 57分、2012年、春日聡

『蘇る筏』 20分、2015年、手塚恵子

『ジェンギのうた』 10分、2015年、矢野原祐史

『ミャオ族の儀礼と女性の宗教的職能者』 (仮題) 20分、2015年、陶冶

